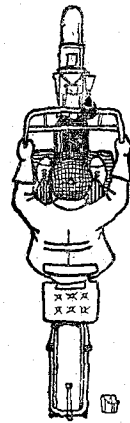


通信 渡歐通信



地方技師 榊 井 照 藏

スカンチナピアの旅を終りて

八月二日乗船、伏見丸は四十有二日の長航海を無事に終りてマルセイユに入港した。之が反對に歸朝の時であつたならば、定めし長旅の疲れもでるであらうが、前途には見學の重任があるので、只だ緊張を覺ゆるのみであつた。

始めて見る歐洲の都市は成る程賑かなもので、殊にマルセイユの港灣設備の如きは研究の價値あるものと思はれた。けれども自分はスカンチナピアの水力を是非見たいと思ふので、直ちに一路スウェーデンに赴く事とし、途中一

寸バリー及ベルリンに立寄り、友人やら大使館で旅行の前途に就ての指導を受け、獨逸のサスニッツよりバルチツク海をカーフェリーにてスウェーデンのトレールボルグに渡り、乗り換へなしにストックホルムに着くことを得た。

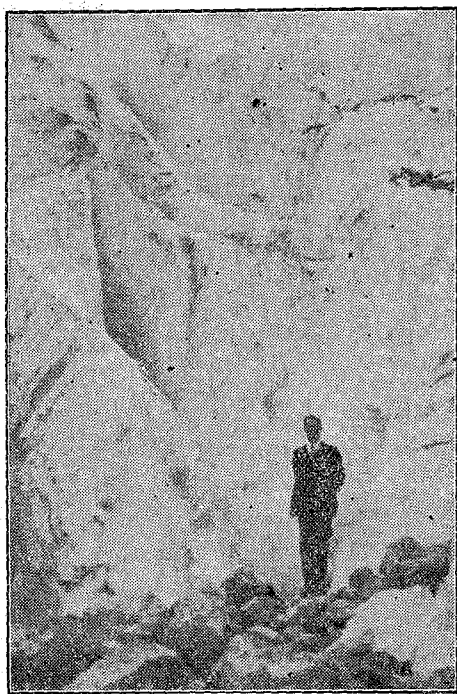
歐洲各國は夫々協定の上首要都市間には何れも直行客車を運轉して居るから誠に便利である、前日のカーフェリーはスウェーデン國が經營して居るものであるが、實に完全なもので一列車約二十輛を二列に分ち搭載し、之に要する

時間も極めて短かく、船は約五千噸で極めてコンホータブルに出来て居り、航海中は甲板に出て散歩する事も出来るし、又食堂喫煙室等もあり愉快に海を渡る事が出来るのである、此聯絡船は一つのスウェーデンの誇りであるが、

夫れだけの價值あるものと思はれた。只だ自分の

渡つた時は夕刻であつた爲め、設備其他を寫眞に撮る事の出来なかつたのは遺憾である。

トレールボルグからの汽車は全く夜行であつた爲、景色を見る事が出来なかつたが、ストツクホルムに着く少し前に夜が明けたので初めてスウェーデンの景色を見ることを得た、全く想像の通りで見渡す限り蝦夷松の森で、其間に點々として湖水が散在し人家は極めて稀



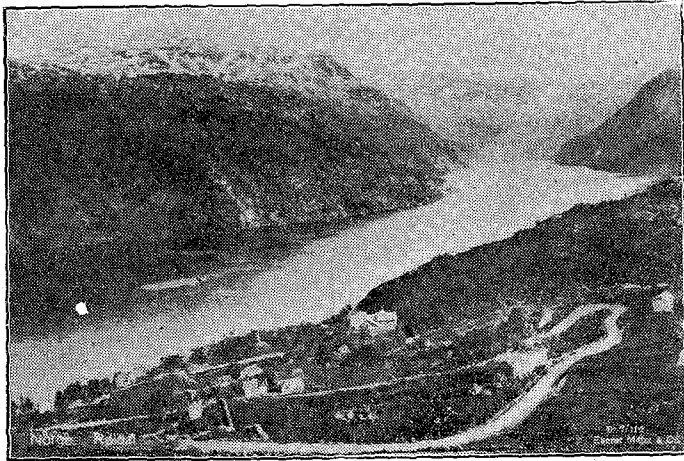
ノエカルの河水の前にあつた樹井氏

で丁度日本の東北地方の淋しい所と同じである。只だ人家は木造ではあるが洋風建築である爲め綺麗である。森林は實に良く繁茂して居つてスウェーデンの殆んど全土は森林であると云つても過言では無いと思はれる程である。併し、

意外に感じたのは山の無い事と地味の非常に悪いことである。瑞典は又岩の國と云つても良い。如何となれば全部花崗岩床であつて、其上を薄き土壌の皮を以て被はれて居るので、突々たる岩石は至る所に其の皮を破つて表はれて居る、湖水の多いのも此爲であつて水は滲透する事がないので凹所には皆溜る譯である。始めの間は之等の森林や湖水の眺めは珍らしいので誠に面白く見られたが暫く経ては飽きが來た、要

するに箱根の蘆ノ湖が無數に有るものと思へば大差ない。但し水は移動する事が少ない爲め番茶色を呈して居つて接近しては餘り綺麗で無い。

此湖水の多いことが自然に瑞典の水力電氣を發達させたのであるが、併し、前述の如く地勢平坦なる爲發電所は皆低い落差のものばかりで、之が若し日本のやうな地勢であつたなら、其の出力は大變なものであらうと思はれる、それでも千八百萬馬力以上を藏すると稱せられて居る、併し、之は全部の湖水や河川を利用してした場合のものであつて、實際には發電不可能のものもある、けれども現在瑞典國の發電力は約百三十五萬馬力で僅かにセバトセントを利用して居るに過ぎないか



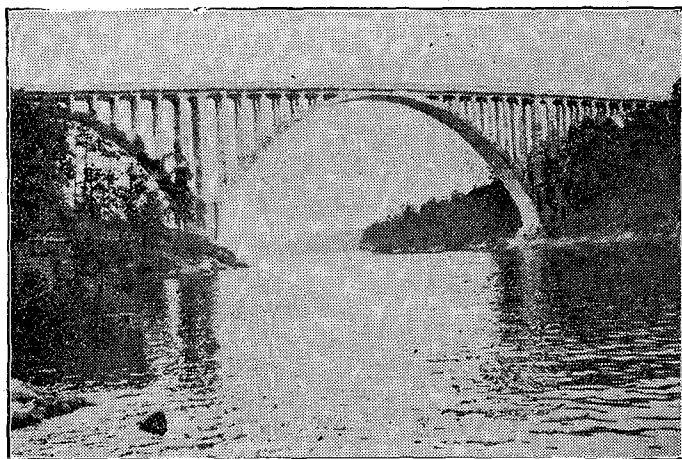
ノエウルー自動車道

ら、同國は將來如何に發展しても動力には困らないだらうと思はれる、瑞典は尙此外に前述せるやうな豊富な森を有し又良好なる鐵礦を産し、而かも人口稀薄なのであるから、氣候こそ寒いけれど、實に恵まれたる國である。従つて國民は生活の安定を得て居る爲め人情も厚く又盜賊の類は更にないそうで、之等の點は日本を顧みる時に實に羨ましく感ぜらるゝのである。瑞典國民は日本に對しては非常に好感を有して居る。之は同國の脅威である露國のバルチック艦隊を日本が全滅せしめたに基因するとも稱せられて居るが、昨年瑞典の皇太子殿下が日本を訪問せられた際の熱誠な歓迎は、

皇太子殿下は非常に日本の歓迎を悦ばれ、御歸國後公開

其の話を聞き道路の改良が國交親善の一助となつた事を非

の席上にて種々日本の好遇を報告せられ、其内にも特に自分の爲に道路を修繕して呉れた所があつたと述べられたそうであるが、之は自分にとつては非常に嬉しく感ぜられた。回顧すれば丁度殿下の御出でになつた時は、神奈川縣では震災復舊工事が完成せず、丁度御道筋に當つた箱根の特二號國道は、工事中で未だ開通して居なかつたのであるが、當時の堀切長官は御通過當日迄に復舊することを計畫され特に自分は出張して督勵する事を命ぜられたのであつたが、従業員の熱誠は遂に御豫定當日迄に復舊工事を完成し無事に御通しする事を得たのである。然るに今度當國に出張して計らず



橋トリークンコ筋鐵ドンスルクスの外市ムルホクツトス

常に愉快に感じた、此外殿下は、實際日本各地より献上した品をストックホルムの博物館に陳列して一般に見せられて居る、國が小さい丈けに、それ丈け早く一般に之等の事柄が知れ渡るので、直ちに國民の好感情として表れるのだとはストックホルムで駐在の長井公使から聞かされた話であつた。

ストックホルムは歐洲で最も塵の少ない都市であると市民は自慢して居るが、之は必ずしも路面の良い爲め計りでなく、同市がメーレン大湖水のバルチック海に注ぐ咽喉部を扼して位置せる爲であるのと、水面が

多い爲と一面工場少き爲であると思ふ。

道路は餘り良好でない、殆んど全部石塊鋪裝で何處も相當磨滅して居て自動車の運行には甚だ不愉快である、然も鐵輪の馬車が可成り多いので騒音が甚だしい、ホテルに居て窓を閉ぢても尙且此音で寢られない位であつた、極めて小部分のアスファルト鋪裝道を見受けるのであるが、別破損の痕も見へないので、何故アスファルト鋪道にしないかと市の技師に尋ねたら、冬期降雪が多いので迂るからだと答へた、併し之は眞理ではなく矢張り經濟上石塊を使用して居るものと考へられる、一部には石塊の小さなものに改造して居るが之は鋪石の大なるものに比し車輛に衝動を與ふることが、尠く永持ちするので結構であらうと思ふ。要するにストックホルムは遊覽の地で、殊に避暑には適當であつて、八月の末の温攝氏二十度内外であるから夜間外出するには外套を要する位である。又夏季、日の永い事も驚く程であつて、自分の行つた時は既に幾分まつて居たが、夫れでも午前三時頃には夜が明け午前九時頃に漸く暮れるのであつた、更に北の方へ行けば六月より八月の半ば

迄は所謂ミッドナイト・サンとて夜間にも太陽を見る事が出来るそうである。以上の状勢は自然と夏季の遊覽客を吸引し、自分の着いた時はアメリカの遊覽者の爲にホテルは満員で、漸く公使館のお世話でホテルを見付けた程であつた。

日の永い事は誠に視察に都合だと悦んで居たら、茲に一つの不便を見出した、それは暑中休暇でこんな涼しい處では必要がなさそうに思ふが、それでも各官廳は暑中休暇の制を定めて執務時間の非常に短い事であつた。八月中には午前十時頃より正午迄しか要路の大官は出勤せぬので調査には誠に不便であつた。ストックホルムは前述の如く大して視察すべき事柄も無いので、一日も早く大體の調査を終り出發し度いと急いだ、けれども以上の有様で止むを得ず數日滞在を餘儀なくされた。普通のツーリストならばストックホルムは誠に面白い所であらう、所謂水の都であつて其處には立派な公園もあり、ホテル其他娛樂機關のやうなものも遊覽客を吸引するやうに出来てゐるからである、自

分が只一つ面白いと思つたのは、斯くの如く水に縁がある爲め水運に關しては古來随分研究されて居る事が認められる事であつた。

前述の如くストックホルムはメーラン湖の海に注ぐのを扼して居る爲、市内の河の流れは可成り急なので、島に依つて分たれたる二つの流れの内、一つに閘門を設けて船の出入を容易ならしめ、之には更に開閉橋を架して道路交通を計つて居つたが、市の發達に伴ひ此開閉橋は自然と不便になつたので、更に後方に一の新運河を開鑿して之を緩和して居る事である。

總て市中に河の有る都市では此問題の爲には少なからず悩まされて居る、如何に完全を期しても橋梁に依る運河の横斷は水陸兩交通に不便を與ふるので、獨逸のハンブルグでは河底横斷のトンネルを造つて之を避けて居るのを見た。此外ストックホルム郊外ではスケルスンドと稱するが、海に出づる航路の一つに、世界一と誇稱する鐵筋コンクリート道路橋を架する等、水陸交通の融和に對しては多大の

犠牲を拂つて居る。

數日を費すことにより漸く大體の智識を得たので、去つて地方の發電所を視察すべく出發したが、何處迄行つても汽車も自動車も淋しい森の中を走るのみで、而も田舎に入つては少しも外國語を話す人が無いので少なからず不便を感じた。

x

x

x

x

x

x